

四旬節第5主日A

ヨハネ11・1-45

皆さん、今日は四旬節第五主日です。次週は受難の主日です。受難週に、私たちはイエスの十字架の死に至る苦難を黙想し、復活の日を待ち望みます。今日の典礼のテーマは、死に対する勝利です。聖パウロは「**キリストは死者の中から復活した。...**キリストは復活しなかったらのなら、私たちの信仰は虚しくあなたがたは今もなお罪の中にあることになります。」(1コリンと15、12-17)、さらに「死は勝利にのみ込まれた。」(15、45)と復活による「死に対する勝利を語ります。

さて、今日の福音書では、イエス様は自分の友人であるマルタ、マリア、ラザロの家を訪問します。それはラザロが病気であることを聞いたからです。到着したとき、ラザロはすでに死んで4日経っていました。マルタとマリアが泣いているのを見て、「心に憤りを覚え」られます。マルタもマリアもおなじようにイエスに「**主よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょうに。**」(21節、32節)と嘆いていたからです。この言葉は、マルタもマリアも、ラザロの死を悲しむあまり主イエスに対する信頼が失われていたことを示しています。マルタは「終わりの日の復活の時に復活する」ことは信じていましたが、目の前でラザロの死に直面し、死を恐れ、ラザロが復活することなどあり得ないと思ったのでしょうか。

皆さん、なぜ私たちは死を恐れるのでしょうか。死の動かしがたい現実に絶望してしまうからです。しかし、聖書の教えによれば、死は永遠の命に至る道なのです。今日の福音もそう教えているのです。私たちは死を祝っているわけではありません。私たちが祝うのは、いのちです。葬儀のミサでも、私たちは死を祝うのではなく、命を祝っているのです。

ところで、皆さんは死についてどう考えていますか？ 私たちは死をどのように捉えているのでしょうか。一緒に考えてみましょう。

今日は死について4つの考え方をあげてみます。

1つ目は、生物学的、医学的に死をどう考えるかということです。生物学的、医学的にみると、死とは、まず脳が破壊され、意識の回復の可能性がなることです。つぎに死とは、心電図で、自発的な心拍がなくなることです。さらに自発呼吸が止まることです。この三つの兆候により、医学的に死と判定されます。

2つ目は、文化的な死に対する理解です。日本でも、ミャンマーでも、死は肉体と魂の「断絶」と理解されてきました。例えば、魂がからだから離れ、家族や友人などが生きる世界から離れることと理解されています。

3つ目は、死に関する教会の教えです。カトリック教会のカテキズムによれば、「死」は罪の結果です(1008)。この考えは、創世記2-3章とパウロのローマ人への手紙5、12-14; 3、21; 6、23に基づいています。死とは、創造主である神の意図に反するもので、罪の結果として、この世に入ってきました。死は、人間の打ち勝つべき「最後の敵」(1コリン15、26)なのです。その敵にイエスは勝ってくださったのです。

4つ目は、自分の死に対する考え方です。皆さん、人はなぜ死を恐れるのでしょうか。おそらく私たちは、死について考えるとき、他の人の死を見て、自分の死を考えています。そして、自分の死について、自分の人生の中の美しいものがすべて終わってしまうのではないかとおそれるのです。私たちは愛する人と離れになり、死後は完全に忘れ去られてしまうのではないかと、また死によって、私たちの計画、野心、夢は実現しないのではないかと、思うかもしれません。死後わたしたちは何が起こるかわからないから、怖いのです。

ですから、誰も自分が死ぬことを受け入れようとはしません。私たちは永遠に生きたいのです。

ここで、今日の福音でイエスが語ったことを見てみましょう。イエスは「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。」と言われました。(25節)。つまり、主イエスが復活し、私たちに命を与えてくださったのです。

死は、イエス・キリストの十字架の死という犠牲により、死は変質させられました。神の子であるイエスもまた、全ての人を経験する死を受け入れられました。死を前にして人間としての怖れを経験してくださいました。イエスは神のみむねに全面的に自発的に服従することによって死を受け入れられました。イエスの従順が死の呪いを祝福に変えられたのです(カテキズム1009)。

死は、私たちが有限で壊れやすい生き物であることを思い起こさせます。私たちの救いは、神の前にひれ伏し、神を信じることです。神との対話の関係を始めることです。神の子イエスが私たちの中で生きていことがわかるように、イエスに自分を開き、イエスの語り掛けに耳をかたむけることです。

愛する人の死を悲しむとき、イエスは「私を信じる者は、死んでも生きる」という約束を心に響かせてくださいます。

私たちが自らの最期を迎えるとき、イエスは私たちに慰めを与え、助けてくださるでしょう。私たちは、イエスにすべてをゆだねることで、栄光を得ることができると信じています。私たちは、イエス・キリストが打ちかかってくださった死の恐怖に勝利することが約束されています。

今日、イエスの復活にあずかり、私たちの復活を信じるができるように祈りましょう。私たちの死は終わりではなく、永遠の命の始まりであることを強く信じられるように祈りましょう。

Lazun naw san Vincent(pime)